

Take it To The Limit.

Take it To The Limit は、私が大学4年の秋、卒論に悪戦苦闘している頃に出会った歌のタイトルである。これは、1970年代に活躍したアメリカのロックバンド・イーグルスの作品である。love song ではあるが、リフレインの部分で繰り返される、Take it to the limit, one more time という言葉が、自分への応援歌であるかのように聞こえて、何度も繰り返し聞き、彼らの大ヒット曲 Hotel California よりも好きな曲となった。

教員となってから、この Take it to the limit の曲と言葉を、授業やクラスの中で紹介してきた。特に、失敗してももう一度やってみようという one more time の重要性を強調した。ある年、3年生の担任をしていた2月の下旬頃。ある男子生徒が話してくれた。「先生、この頃勉強が楽しいです。1日12時間くらい勉強しています。初めて勉強がおもしろいと感じています。イーグルスの Take it to the limit, one more time. を聞いていますよ。」

一つのことには一生懸命打ち込んだ人にだけ見える風景がある、と私は信じている。

鳥海山を象潟から登るとする。7合目まで行くと、西や南の方向に日本海・庄内平野・月山などの雄大な景色が広がって見える。それで満足して下山してもいいのだが、山頂まで登ると、それまでは見えなかった景色が見える。それは、鳥海山の東側に広がる大曲横手盆地・奥羽山脈の山々・岩手山・早池峰山。山頂を極めた者だけが見られる景色だ。

フィギュアスケート男子の羽生選手は、中国で行われたグランプリシリーズ直前練習で大けがをしたにもかかわらず、試合に出場した。その判断を批判する声もあったが、羽生選手が見ていた風景は、私たちには見えない風景だったのではないかと感じている。

今、受験勉強に一生懸命取り組んでいるみんなが、いつか「勉強がおもしろい」という境地に達して欲しいと願っている。そのためには、失敗しても、くじけても、スモールステップで、one more time の精神で取り組んで欲しい。

「勉強がおもしろい」と語ってくれた男子生徒は、こうも話していた。「このおもしろさに、もう少し早く気づいていれば。」

あることを、とことんやってみると、そのおもしろさに気づく。Take it to the limit, one more time. を勉強でも部活動でも、日々実践してくれることを期待している。

